

大学英語教育学会（JACET）中部支部 2018 年度秋季定例研究会プログラム

日時：2018 年 11 月 17 日(土) 13 時 30 分～17 時 55 分

会場：名古屋外国語大学 7 号館 732 教室

愛知県日進市岩崎町竹ノ山 57

- | | | | |
|---------|-----------------------------------|------|------------------------------|
| 開会挨拶 | 13 時 30 分～13 時 35 分 | 支部長 | 村田泰美(名城大学) |
| 研究発表 1 | 13 時 35 分～14 時 05 分 | 司会 | 今井隆夫(愛知教育大学) |
| | プロソディ指導と英文読解力の発達の関係について | | 吉川 りさ (豊橋技術科学大学) |
| 研究発表 2 | 14 時 10 分～14 時 40 分 | 司会 | 安達理恵(愛知大学) |
| | 外国語読解不安研究の成果と展望 | | 三上仁志 (中部大学) |
| 休憩 | 14 時 40 分～14 時 50 分 | | |
| 研究会研究発表 | 14 時 50 分～15 時 40 分 | | |
| | 「カリキュラムの中の英語アカデミック・ライティング指導」 | | ライティング研究会
佐藤雄大 (名古屋外国語大学) |
| 休憩 | 15 時 40 分～16 時 00 分 | | |
| 支部総会 | 16 時 00 分～16 時 15 分 | | |
| 講演会 | 16 時 20 分～17 時 50 分 | 司会 | 佐藤雄大 (名古屋外国語大学) |
| | 「アカデミック・ライティングとその支援—早稲田大学での取り組み—」 | | 佐渡島 紗織(早稲田大学国際学術院教授) |
| 閉会挨拶 | 17 時 50 分～17 時 55 分 | 副支部長 | 佐藤雄大(名古屋外国語大学) |

発表概要

研究発表 1

13 時 35 分～14 時 05 分

プロソディ指導と英文読解力の発達の関係について

吉川りさ（豊橋技術科学大学）

語強勢やリズム、イントネーションを表すプロソディを適切に理解し操作できる力は、英語を母語とする子どもの学習者の読解力と読みの流暢さを説明することが報告されている。しかしながら日本での英語教育においては、プロソディに焦点を当てた指導が十分に浸透しておらず、英文読解との関係が明らかになっていない。そこで、大学での英語授業でプロソディ指導を行ったクラスと行わなかったクラスの学生の英文読解力の発達を比較し、プロソディ指導の役割を検討することとした。英文読解力の測定には語彙テストを使用した。本発表では、授業で取り入れたタスク活動の紹介と、実践の改善点や課題点を提示しつつ、英文読解力との関連を考察したい。

研究発表 2

14 時 10 分～14 時 40 分

外国語読解不安研究の成果と展望

三上仁志（中部大学）

本発表では、外国語読解不安(外国語を読解する際に学習者が感じる不安感情)に関する実証研究の成果を整理し、今後の展望について述べる。研究成果については、以下の3点に焦点をあてる: (a) 大学レベルの英語学習者の外国語読解不安を誘発する要因、(b) 外国語読解不安が読解パフォーマンスに与える影響、(c) 外国語読解不安と読解能力 (reading proficiency) の関係性。研究成果を整理した後、研究手法に関する2つの問題点(外国語読解不安測定材の妥当性の検証が不完全であること、読解能力を測定する際の方法が統一されていないこと)について解説し、問題の打開策を提案する。

研究会研究発表(ライティング研究会)

14時50分～15時40分

「カリキュラムの中の英語アカデミック・ライティング指導」 佐藤雄大 (名古屋外国語大学)

「4年間を視野に入れて学生の英語アカデミック・ライティングをどのように伸ばしていくか?」というのが英語による卒業研究を必須としている私の所属する学科(名古屋外国語大学・現代英語学科)のカリキュラム上もっとも重要なテーマとなっている。「アカデミック」とはどのような要素で構成されているのか、「英語ライティング」でそれらを表現するにはどのようなステップを踏むべきなのか、など4年間で学生の英語アカデミック・ライティング力を伸ばすために学科カリキュラムに位置づけられたステップを紹介しながら、具体的な日々の取り組みを報告したい。

講演

16時20分～17時50分

アカデミック・ライティングとその支援—早稲田大学での取り組み—

佐渡島 紗織(早稲田大学国際学術院教授)

1950年代にアメリカで始められたライティング・センターは、2000年頃に日本に上陸し、2010年頃より全国で爆発的に増えた。ライティング・センターは、一斉指導を中心とするアカデミック・ライティング授業とは異なり、個別に書き手を支援する機関である。少子化により学生の人口が少なくなった日本においてまさに期待される、丁寧な教育の一環である。また、大学院への進学率が上昇している日本では、FD教育の対象に大学院生を含めることが一般的になってきた。こうした背景の中で、早稲田大学では15年に亘りライティング・センターを運営してきた。何と言っても、その実践の中心は優れたチューター育成である。本講演では、ライティング・センターの指導理念、アカデミック・ライティング授業との連関、運営方法、チューター育成方法、成果、課題を紹介する。

講演会講師紹介

佐渡島 紗織(さどしま さおり)

早稲田大学国際学術院教授。専門は、国語教育、特に文章作成の指導と評価。国際基督教大学で修士課程終了後、米国イリノイ大学にて1998年にPh.D.を取得。国立国語研究所研究補佐員を経て2002年より早稲田大学。学部と大学院でゼミを担当する他、初年次文章作成授業とライティング・センター運営を担当している。小中学校の国語教科書編集にも携わっている。著書に『これから研究を書くひとのためのガイドブック』(共著、ひつじ書房:2008)、『文章チュータリングの理念と実践』(共編著、ひつじ書房:2013)、『法を学ぶ人のための文章作法』(共著、有斐閣:2016)、「因子分析による学術的文章作成力の構造解析」『リメディアル教育研究』11(2)(共著、2016)、などがある。

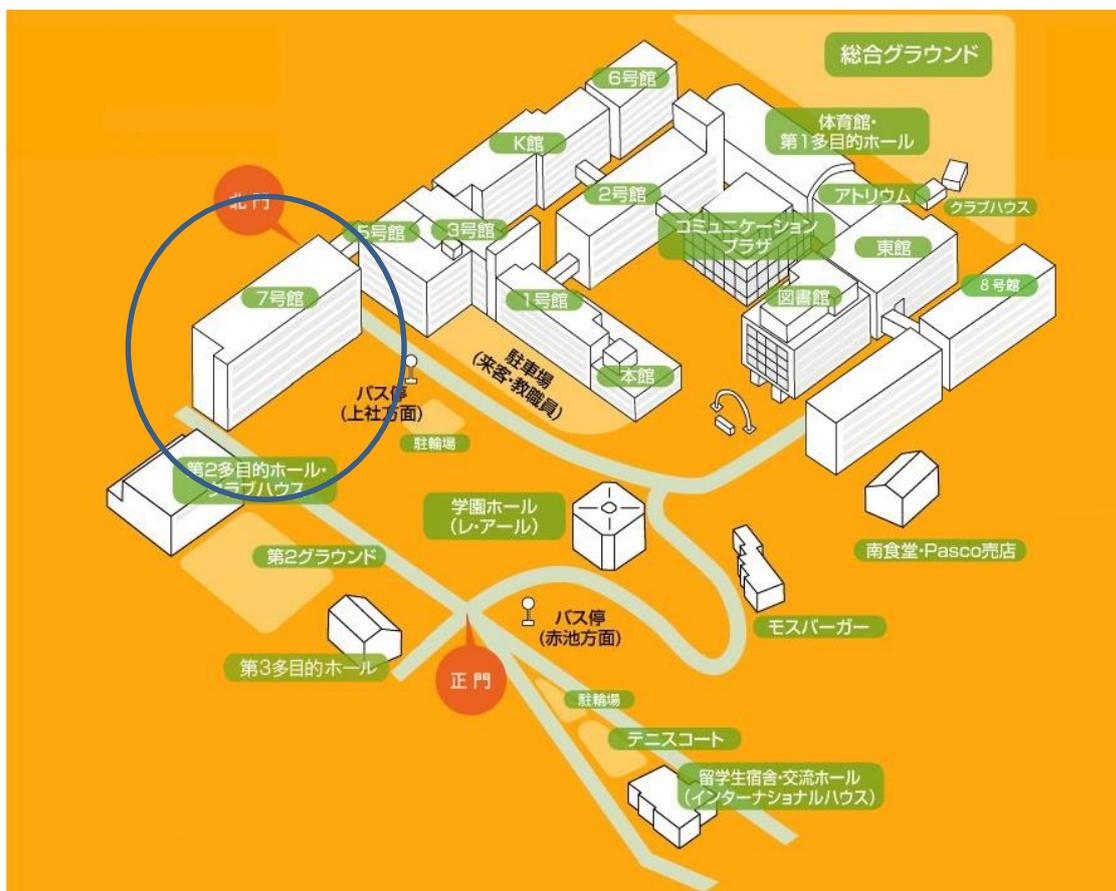
事務局からのお知らせ

- ☆ 駐車場はございませんので公共交通機関をご利用下さい。
- ☆ 当日、第6回中部支部役員会(12:00~13:00)を行います。役員は同会場3階 736室にご参集下さい。

会場アクセス

専用バスが上社、赤池、2 駅から運行しています。名古屋外国語大学までの所要時間はいずれも約 15 分です。乗車時の際に、「大学英語教育学会、秋季定例研究」に参加の旨をお申し出ください。詳細は下記 HP をご覧ください。

<https://www.nufs.ac.jp/outline/access/>



定例研究会に関するお問い合わせは、JACET 中部支部事務局までお願いします。

JACET 中部支部事務局:名城大学 藤原康弘研究室内

fujiwara@meijo-u.ac.jp